

- 憲法および教育に関する諸法規
- 学習指導要領
- 東京都 教育目標
- 小平市 教育目標

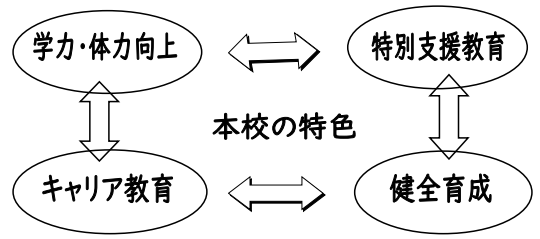
学校教育目標
 豊かな心を養い 学力・体力の向上を目指し
 未来へはばたく人物を育成する

- 1 心身ともに健康で 自らを鍛え 努力する人
- 2 進んで学び 社会のために尽くす人
- 3 認め合い 支え合う心優しい人

- 最重要課題**
- ・生きて働く知識・技能の習得
 - ・未知の状況でも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
 - ・学びを人生や社会に生かそうとする
 - ・学びに向かう力・人間性等の涵養
 - 豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる生徒の育成

学校経営方針 ～人間尊重の精神に徹し情操豊かで実践力のある人物を育成する～

- ・すべての子どもに生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識と技能を習得させる
- ・授業改善プランを活用して、計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを生かした指導
- ・小学校と連携し中学校で必要な基礎的・基本的事項の定着に努め、習熟度別少人数学習指導等の指導方法の工夫・改善と実践を図る
- ・特別支援教育の視点にたった環境・授業づくりを目指し、わかる授業を推進する
- ・家庭と協力しながら、生徒が自ら計画的に家庭学習に取り組めるよう積極的に指導する
- ・情報教育を体系的に位置づけ、情報化に対応した指導とICT機器を活用した授業改善



各教科の指導の重点

- ・「授業改善推進プラン」に基づき、個に応じた指導法(少人数授業・TT 他)を生かし、個に応じたきめ細かな指導を行う
- ・基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る
- ・言語活動の充実を図るため、「読む」「書く」「聞く」「話す」を意識した授業を組み立てる
- ・話し合い活動はもちろん、ICT 機器の活用などを通して、意見を交流する場面を増やし、他者の意見を広く聞き、理解を深める
- ・生徒の授業評価等を活用し、指導の方法を工夫・改善する
- ・HP を通して授業の様子を広く紹介し、家庭や地域社会との連携を図る

本校における「確かな学力」

本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、自ら学び自ら考える力を育成する。

学習に興味や関心をもつ、疑問に思う、目的が明確になるなどによって「学ぼうとする力」が獲得される。そして、自らやってみる、練習する、課題を自分で考え工夫する、などによって「学びとる力」が獲得される。さらに、分かった、できた、完成した、解決したという状況に至るとき、「学んで得た力」が形成される。「学んで得た力」に含まれる達成感や成徳感、さらに次の問題解決への意欲(学ぼうとする力)を引き出すことができる。これらの活動を繰り返すことにより、「確かな学力」並びに「主体的に学習に取り組む生徒」が形成されていくと考えられる。

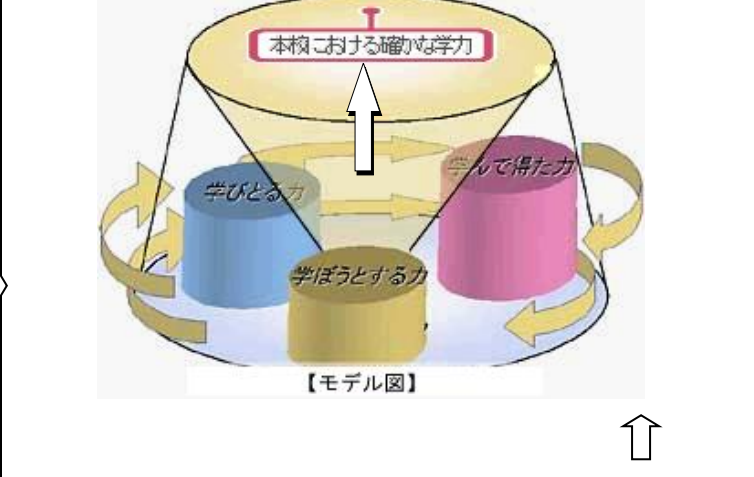
さらに新しい学習サイクルである「自分で考える」→「自分の考えを授業で確認する」→「理解を深める」自主学習を推進する。

道徳教育の指導の重点

- ・心身の健康増進のため、望ましい生活習慣や食習慣を習得させ、理想や目標を目指し粘り強く積極的に取り組む態度を養う
- ・勤労と奉仕の精神に基づく協調性と自主性のある人間を育て、人間としてよりよい生き方について考える力を育てる
- ・道徳教育推進教師を中心に、年間指導・評価計画に基づき、毎時間の指導や生活の中で道徳の実践力を高める
- ・道徳の授業の様子を保護者会等や HP を通して広く紹介し、家庭や地域社会との連携を推進する
- ・生命の尊さを理解できるように、かけがえない自他の生命を尊重する心を育てる

総合的な学習の指導の重点

- ・自ら設定した課題を解決するために、調べ学習や体験学習、発表会等の活動や探求活動を通して、自ら考え、自ら課題を見付け、解決する力、豊かな表現力等を身に付け、一連の学習活動とおして、学び方やものの考え方を身に付け、主体的に生きる力の育成を図る



特別活動の指導の重点

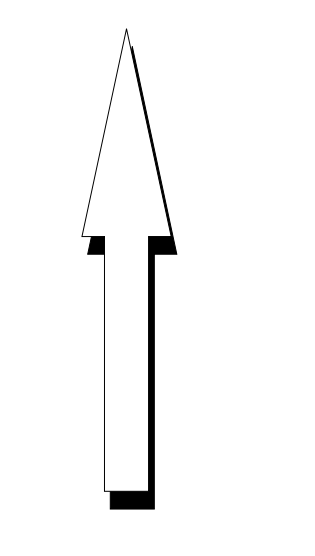
- ・自主的、実践的な活動を通して個性を伸ばし、自主性、創造性を高めるとともに、目的に向かい協力してやり遂げる達成感を体験し、自己を生かす能力と望ましい人間関係をつくる力の育成を図る
- ・心身の健全な発達と、自他の安全を確保する能力を高め、秩序と調和のとれた集団や社会の一員としての在り方について考える力を育てる

進路指導の重点

- ・キャリア教育の系統的指導を目指し、新入生体験入学や出前授業などを充実させ、連携小学校との円滑な接続を図る
- ・キャリア教育を通して、望ましい勤労観・職業観を育み、よりよい生き方を探求する

その他の指導の重点

- ・特別支援学級との交流を推進し、「相手を理解し、思いやり、支える」心と態度を育てる
- ・読書マラソン等の取り組みを通して、日常的に読書に親しみ、読書の習慣化を図る
- ・チームティーチングによる指導体制で生徒の体力・精神力の向上に取り組む



生活指導の重点

- ・自主的、自発的な活動を通して集団への所属感を高め、協力、親和、友情などの意義を実践の中で体得させ、好ましい人間関係を育てるとともに、規範意識を醸成する
- ・深い生徒理解に基づいて、基本的生活習慣の育成や、個に応じた指導の工夫を図る
- ・特別支援教育推進委員会を中心に、学校生活支援シート等を作成し、特別支援教育を推進する
- ・学校サポートチーム等を活用し、相談・助言等を通じ地域ぐるみで生徒の健全な育成を進めていく
- ・いじめ防止授業、ふれあい月間を通して、自己や他者の生命を尊重する態度を育成する
- ・教育相談活動を組織的に行い、問題行動の早期発見・早期対応を目指す

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や ICT 機器の活用で、意見交流の場面を増やし、他者の意見を広く聞き、理解を深めるとともに生徒の自己有用感を育み、学習意欲の向上を図る ・重点的な指導や繰り返し指導などの指導計画やチームティーチングや習熟度別少人数指導などの指導体制を充実させる ・ICT 機器を活用した授業を展開し、自主学習を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数の管理を適切に行い、授業時数の確保に努める ・校外学習等の行事を適切な時期に配置し生活のリズムを適正にする ・感染症などの社会情勢に応じて、オンライン授業等を行い、学習の遅延を減らし、生徒の学習の機会を保障する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力・授業力の向上を図るための校内研修会を2・3学期に実施する ・教科等研究会等の成果を校内に還元する ・特別支援教育に対する理解を深めるために、巡回相談員と連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的評価・総括的評価等を適切に実施し、指導計画等の改善に役立てる ・生徒による授業評価を2学期末に適切に実施し、その変容を確かめ、授業の改善に資する ・授業改善につながる学校関係者評価を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や三者面談において各教科指導計画・評価計画等の説明を行う ・面談の機会を全校で設定し、生徒や保護者との相互理解を深める ・地域の人材や学生ボランティアを積極的に導入し、学習支援を充実する

令和5年度 授業改善プラン

教科名 国語科
小平市立花小金井南中学校

1. 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) 音読活動やグループ活動に前向きに取り組む姿勢が見られる。やや固定的ではあるが発言も多く、生徒の発言で授業が進んでいる。 (2) 読書欲が旺盛で、学級文庫やおすすめ図書を進んで読む生徒がとても多い。素直な学習姿勢で、「中学生の読書」への移行がスムーズである。漢字学習はできる生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。 (3) 内容読解はできていてもそれをことばでまとめたり、言い換えたりする力、また自分に引きつけて意見を述べる習慣がついていない。
	指導面	(1) 画像や映像を補助教材とすることや、音読を重視し、励行することで、教材の理解を深める工夫をした。 (2) 挙手発言だけでなく指名発言も行い、また、話し合い活動を行うことで授業への参加意識を高め、クラス全員で授業を構築できるようにした。 (3) 読解の基礎基本をわかりやすく説明し、演習を繰り返すことで「読み方」「考え方」「まとめ方」の指導を行った。
2年	学習面	(1) 授業は真摯に取り組んでおり、特にグループ活動や発表などは意欲的に取り組む生徒が多い。 (2) 深層的読みが昨年よりできるようになっている一方で、表層的読みでつまづいている生徒が一定数いる。 (3) 抵抗なく長い文章を書ける生徒が多いが、長くなるにつれ文法のねじれやニュアンスが異なる表現が増える。
	指導面	(1) 発表の機会を積極的に取り入れたことで、自分の考えを他者に伝える工夫を考える姿勢が身に付いた。 (2) 言葉一つ一つを丁寧に捉えて表現の効果を考える活動を多く取り入れてきた。初読の印象と変わった、と振り返ることができる生徒が増えている。一方で、時・場所・出来事などの基礎的な情報を文章から確実に読み取れるように確認する指導も不可欠である。 (3) 伝えたいことを言葉にしたときに、自分の意図と異なる表現になってしまうことがあるため、教師のフィードバックで細かな表現についての個別指導をしている。
3年	学習面	(1) 授業に真面目に取り組むことができ、小テスト等に向けて、漢字などの基礎的な知識習得のための学習にも取り組めるようになってきた。 (2) 論説文を理解、整理しながら読むのが苦手な生徒が多い。小説を読んで、心情を想像したり人物像を捉えたりすることを苦手とする生徒はさらに多い。
	指導面	(1) 課題や、問題に真剣に取り組む姿が見られる。 (2) 漢字等の基礎的な問題や、答えがはっきりと決まっている問題には積極的に取り組むが、深く考え、試行錯誤しながら答えを導き出す問題については、模範解答を待つしまうので、指導方法や、評価方法に改善が必要。

2. 授業改善プラン		
1年	学習面	(1) 漢字や音読の反復練習、暗唱などに継続して取り組ませる。 (2) 書くことに力を入れ、自分がまとめた物を元にしたグループ活動や発言・発表活動を多く取り入れる。 (3) 理由や根拠をあげた発言の仕方や「説得力ある発表」を意識させながら、発表の仕方や話し合い活動を身につけさせる。
	指導面	(1) 漢字や音読、簡単な小テストを定期的に導入し、学習の意欲や取り組みが継続していくように配慮する。 (2) 4人班での話し合い活動を定着させ、他人の意見を聞き実際に発言することで自分の読解と発表力の向上を助けさせる。 (3) 興味関心のわく教材を精選し、画像や映像を補助とし、時には学習者用端末(クロームブック)を用いながら読解を深めさせ、自分に引きつけた思考・判断・表現ができるようにする。
2年	学習面	(1) 互いに評価し合い、自分の発表や作品を客観的に振り返る時間を設ける。 (2) 音読活動を積極的に取り入れ、文章に馴染めるようにする。 (3) 物語や短歌などの作品作りを通して、長い文章で自分の伝えたいことを他者に伝える取り組みをしていく。
	指導面	(1) 互いに評価できるワークシートを用意したり、ICTを利用して互いの作品を見られるようにしたりと、客観的に相互評価し、それを自分の作品に生かせるようにする。 (2) 音読の目的をその都度伝え、目的意識をもって積極的に音読できるように指導する。 (3) 伝えたいことを箇条書きにしてから、一文を短く簡潔にまとめる、など、順序を追って文章表現をする指導をしていく。
3年	学習面	(1) 小テストを何度も行ったり、正答率の低い問題を再度出題するなどして、基礎的な学力の定着をはかる。 (2) 文章の中に根拠を求めながら一文一文、丁寧に読み進めて授業を行う。論説文なら、接続する語に注目するなど、文章を整理する技術を教える。小説では語彙に与えられた意味を考え、根拠を明確にしながら、心情を捉える練習をする。
	指導面	(1) 一人でまずは考え、分かなければ周囲に聞いたり、困っている人がいたら自分の言葉で説明してあげたりコミュニケーションをとりながら高め合えるよう支援する。 (2) 4人組の活動を積極的に取り入れ、他者の考えを聞きいたり、自分の意見を聞いてもらう場と作ることで、考えを深める経験をさせる。また、そのこと自体に価値があることを伝えていく。また、考えの深まりを見とれるよう、ワークシート等を工夫する。

3. 授業改善プランの評価(成果の確認)		
(1) 定期テストや小テストの実施 (2) 各学期ごとの観点別学習状況の評価と比較 (3) 生徒による自己評価(理解の程度など)		

授業改善推進プラン

教科名:社会科

小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	①地理・歴史について興味・関心をもって授業に取り組んでいる。 ②社会的事象に関して、その背景や影響等を考える思考力に課題がある。 ③複数の資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。
	指導面	①毎時間プレゼンテーションソフトを使用して、興味関心を引き出している。 ②社会的事象に対して、様々な視点で考察するように促している。 ③より多い資料の提示、読み取る時間を設けている。
2年	学習面	①地理・歴史について興味・関心をもって授業に取り組んでいる。 ②資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。 ③社会的事象について、その背景や影響等を考える思考力に課題がある。
	指導面	①毎時間に授業プリントを配布し、知識が定着できるようにしている。 ②授業プリントを使い、自分の考えをまとめさせ、思考力の向上を図っている。 ③デジタル教科書を活用し、視覚的に資料を提示して、社会的事象をとらえる指導をしている。
3年	学習面	①歴史を苦手としている生徒もいるが、興味・関心をもって授業に取り組む生徒が多い。 ②社会的事象に対して、資料などをもとに、その背景や、影響など考える力に課題がある。 ③考えたことを簡潔にまとめ、表現する力が少しずつついてきている。
	指導面	①单元ごとに单元テストを実施し、基本的な知識が定着できるようにしている。 ②毎時間、資料を読み取る時間を設定し、資料を読み取る力の向上を図っている。 ③单元シートを活用し、自分の考えなどを整理させ、思考力・表現力の向上を図っている。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	①知識を定着させるために、学んだことを表現する活動を増やす。 ②映像資料などを教科書の内容に関連づけ、様々な立場から考えるようにする。 ③資料を読み取り、視点を変えて考えさせ、協同学習を通して、学習する。
	指導面	①問題集や学習者用端末を活用した小テストなどを取り入れる。 ②グループ学習を増やし、他者の意見を取り入れ、自身の意見の再構成する活動を増やす。 ③資料を提示し、グループで課題を共有、解決しながら、考えを深める指導を行う。
2年	学習面	①学習者用端末(タブレット)を使い、主体的に学習に取り組む活動を行う。 ②各資料のデータを授業内で取り入れ、情報活用能力、推論して解決する力を高めさせる。 ③授業プリントや教科書、様々な資料と関連づけ、多面的・多角的に事象をとらえるようにする。
	指導面	①单元計画を見直し、探究学習など取り入れ、主体的に学ぶ活動を行う。 ②グループ活動を積極的に行い、資料の読み取りや他者の意見も聞き、思考力を深めさせる。 ③多面的なモノの見方や考え方を意識して、時事問題や教材を選ぶ。
3年	学習面	①学習者用端末を効果的に活用していく。 ②資料から読み取ったことを話し合い、他者の意見を聞いて自分の考えを再構築する。 ③授業プリントや教科書、様々な資料と関連づけ、多面的・多角的に事象をとらえるようにする。
	指導面	①单元シートなど、社会的な「見方・考え方」を働かせられるような問いを設定する。 ②複数の資料を提示するなどして、様々な視点から社会的事象を考えられるような場面を設定する。 ③話し合い活動などを設定し、自身の考えを深め、また他者に伝える力をつけていく。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)	
(1) 観点別学習状況の評価の前年度との比較	
(2) 定期テスト、小テスト、小プリント。	
(3) 授業アンケート、レポート、コンクール作文等。	
(4) 授業内容についての自己評価表。	

1 日常の学習状況・課題

1年	学習面	(1) 一部であるが計算力を中心とした、基礎学力の向上が課題である。 (2) 授業にも慣れ、積極的・意欲的に数学の学習に取り組む生徒が増えてきた。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒の補充学習を行い、学力向上を図っていく必要がある。 (2) 「思考力・判断力・表現力」を向上させる指導が必要である。
2年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組む生徒が増えてきた。 (2) 「知識・技能」については、一定のレベルを保っている。これからも「思考力・判断力・表現力」を中心に実力を高める指導が必要である。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒の学力向上を図っていく必要がある。 (2) 「思考力・判断力・表現力」の力を高めさせる指導が必要である。
3年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組む生徒が多い。 (2) 「知識・技能」については、一定のレベルを保っている。「思考力・判断力・表現力」が身に付く指導が必要である。
	指導面	(1) 生徒の学力向上が課題である。 (2) 「思考力・判断力・表現力」高めていく授業が必要である。

2 授業改善推進プラン

1年	学習面	(1) 繰り返し学習させることにより、基礎学力を身に付けさせる。それとともに達成感を感じ、より意欲を高める工夫を行っていく。 (2) 学習の定着状況等についての確認やテスト直しややり直しテストを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、補充教室をするなど、個別の対応を行う。また、TT(チームティーチング)を生かし、学び合い学習を取り入れ、分かる生徒が苦手な生徒に教える場面を作り、様々な生徒が達成感を得られるよう取り組む。 (2) 文章題を扱う時間を増やし、文章題作成についても授業に盛り込んでいく。また、問題に対するヒントなど設問を工夫し、考える時間をできるだけ確保する。
2年	学習面	(1) 反復練習をさせることにより、基礎学力を身に付けさせる。達成感を味わわせ、より意欲を高めていく。 (2) 学習の定着状況等についての確認や小テストを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、基礎学力補充課題を作成するなど、習熟度別少人数授業を生かして個別の対応を行う。 (2) 文章題応用問題を扱う時間を増やしていく。また、問題に対するヒントなど設問を工夫し、考える時間をできるだけ確保する。 (3) 既習事項を、身近な事象に活用する課題を取り上げ、自分の考えを発表する時間を作る。
3年	学習面	(1) 繰り返し学習と反復学習を状況に応じて取り入れることにより、基礎学力が定着し達成感を感じることで意欲を高めていく。 (2) 学習の定着状況等についての確認やテスト直しを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、習熟度別少人数授業を生かして、計算力向上のため個別に対応する。 (2) 文章題などの発展的な問題を扱う時間を増やし、既習事項の活用の仕方を練習する。 また、問題に対してヒントとなる設問を入れて、じっくり考える時間や学び合い学習を行う時間を確保する。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- (1) 定期考査での学習結果の前年度との比較と成績下位層と上位層の生徒の変容
- (2) 観点別学習状況の評価の変容
- (3) 学期末・年度末に「生徒による授業評価」を実施

授業改善推進プラン 教科名:理科 小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
一年生	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業で、考えを自分の言葉で書いている。説明する力がある生徒は多いが、記述で表すことにはまだ伸びしろがある。 ・実物に対して深い興味を表す生徒が多い。半面、見えない事象や抽象的な概念は理解しにくく、興味を失いがちである。 ・満点を目指す小テストの平均点は7割ほど。個人で繰り返し学習し身に付けることに課題が感じられる。 ・定期テストの平均点は7割弱。授業内容の一定の理解はできているが、深い理解にたどり着いていない。
	指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループでの話し合いを毎授業で行っている。すべての生徒が気軽に情報交換できる反面、人の意見に対する鋭い反論は出にくい。高いレベルの理解にクラス全体でたどり着く意識にはまだ伸びしろがある。 ・PCで実験のようすを撮影すると、工夫して見やすいように撮影できている。思考することについてはまだノートの方が使い勝手が良い。今後、系統的に授業内容を理解できるようなICTの使い方を模索していきたい。
	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒ほぼ全員が観察・実験に関する興味関心が高く、常に主体的に学習に取り組む。知識獲得能力も高い。 ・先の見通しをもって仮説の設定や検証する力に課題があったので、必ず事前に予想を立てさせ、結果の考察を行った。 ・繰り返し話し合い活動を行うことで、自ら進んで発信し、周囲の意見を受信しながら、考えを深められるようになった。 ・定期考査の平均は七割弱。知識はあるが、それを活用して思考したり表現する力に多少課題が残る。
	指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・直接体験による学習効果が高い集団なので、必ず生徒主体の観察・実験を核とした授業を展開している。 ・各単元ごと、事前にテーマとなる課題について考えさせ、事後に振り返りを行い自分の言葉でまとめさせている。 ・今後も数多くの話し合い活動を積み重ね、意見交換を通して思考力や表現力を高めるよう働きかけている。 ・学習のまとめでは、個で行ったまとめを周囲と共有し、知識を組み合わせによる活用する力を高める指導・支援を行っている。
三年生	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みができることをやらないことによってできなくなり、わからなくなってしまう生徒が一定数いた。取り組む意志をもったときにそのときの『わからない』が足を引っ張るときも見られた。 ・課題の達成状況 取り組んだもののレベルは継続して高い。 ・話し合い活動 発信・受信さらに向上した。考えを深め、他者との関わりで深化していくことが当たり前のようにある。 ・伝え合う活動の中で思考の深まりができていく。より高いレベルを目指して続けたい。
	指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・理科を他教科との既習事項や世界情勢、日常生活と横断的に繋げ、体系的に理解を促すように工夫していく。 ・わかったところで学びをとめないように、定着を促す課題の工夫を行う。 ・科学史を学び、現代とつながりを知り、更なる理解へとつなげていく。 ・伝え合い、深め合う活動を基盤にして探求する姿勢を養っていく。

2 授業改善推進プラン		
一年	学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを記述させる際、多視点で考えたり、具体例を考えたり、新たな気づきが増えるよう促していく。 ・見えない事象や抽象的な概念を扱っていても、常に身近な具体例やモデルと対比するよう指導する。 ・普段の提出物から、いつまでどこまで、どの程度行えばよいのか、評価の視点を明らかにしながら取り組ませる。 ・授業の最後のまとめで集中を失わないよう、生徒とやり取りしながらクラス全体の理解にたどり着くよう指導を進める。
	指導	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて指名を行い、必要な発言がクラス全体の理解を深めるために不可欠であることを示していく。 ・クラスルーム(指導用プラットフォーム)を活用し、継続的に授業の記録を残していくようにする。また、定期的にクラスルームを見ることができ仕組みづくりを行う。
二年	学習	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に観察・実験に取り組めるよう、顕微鏡等の基礎操作に関する実技試験をクリアして技能を高めていく。 ・事前に既習事項の確認を行い、自ら身に付けた知識を活用する発問に対して課題解決を図る。 ・話し合い活動にジグソー法等加えて意見交換を行い、生徒自身が情報収集能力や思考判断力を高める活動に取り組む。 ・小テストで基本的な知識を身に付けたか確認し、それを活用した課題について考え学習を深める。
	指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が観察・実験に自ら進んで取り組めるよう、実技試験等で個別指導を行い、周囲と協力して高めあうよう働きかける。 ・生物単元において、自らの体について主体的に学ぶように「生徒が先生」となる授業を展開する。 ・理科の見方・考え方を意識するよう発問し、生徒同士で協働して課題解決を図るよう指導・支援する。 ・常に見通しをもって学習に取り組むよう働きかけ、学習カルテやノート、小テスト、レポートなど多面的な個別指導を行う。
三年	学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートづくり、振り返り、メモリーツリーづくりを集中して継続的に行えるように活動をしていく。 ・『できること』に取り組まないことを、周囲の声掛けによって意識させ改善させる環境をつくる。 ・科学史を学ぶ楽しさを伝え、人の不思議に思い、発見していく力の価値観を高める。
	指導	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の観点を明確にした実験を行い、記録を丁寧に行うこと、その中から必要な事象を適切に取り上げることを指導していく。 ・考える時間と情報共有を行う時間を確保し、アウトプットする機会、クラス全体に共有する機会を失わない。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- (1) 1,2年生は、授業評価や学力向上調査の結果より評価を行う。
- (2) 3年は復習確認テスト3回の実施とその結果を分析する。
- (3) 日常的指導の中での生徒の学習態度や課題に取り組む姿勢、教師の働きかけに来する生徒の反応などを評価する。

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1)どのクラスも向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2)姿勢や発声に気を付けて、音楽を創り上げる意識がある。 (3)「鑑賞」の学習への取り組みは、静かに落ち着いて鑑賞する態度が身に付いている。
	指導面	(1)表現活動に必要な発声や楽器の奏法の基礎を身に付けさせる。 (2)表現の基礎的な知識・読譜力等を身に付けさせる。
2年	学習面	(1)どのクラスも向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2)自主的に考え、音楽を創り上げる意識がある。 (3)「鑑賞」の学習への取り組みは、意欲的に鑑賞する態度が身に付いている。
	指導面	(1)表現活動に必要な発声や楽器の奏法をしっかりと身に付けさせる。 (2)表現の基礎的な知識・読譜力等を身につけ、自ら考え表現する力を付ける。
3年	学習面	(1)どのクラスも向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2)バランス、ハーモニーなどを考えて、音楽を創り上げる意識がある。 (3)「鑑賞」の学習への取り組みは、意欲的に鑑賞する態度が身に付いている。
	指導面	(1)表現活動に必要な発声や楽器の奏法を身につけ、工夫して表現させる。 (2)表現の基礎的な知識・読譜力等を身につけ、自ら考え意欲的に表現する力を付ける。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1)音楽表現をするために、姿勢や演奏の基礎を身に付けさせる。 (2)音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。
	指導面	(1)ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2)課題の目標を明確に提示し、練習の仕方を具体的に指示する。 (3)音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身に付けられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表する機会を多くする。
2年	学習面	(1)音楽表現をするために、自ら工夫して表現できるようにさせる。 (2)音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。 (3)リーダーを中心に、課題を見つけ練習できるようにさせる。
	指導面	(1)ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2)課題の目標を明確に提示し、いろいろな練習方法をアドバイスする。 (3)音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身に付けられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表する機会を多くする。また、ICTを活用する。
3年	学習面	(1)音楽表現をするために、豊かな表現力を身に付けさせる。 (2)音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。 (3)リーダーを中心に、お互いに高めあえるような練習をさせる。
	指導面	(1)ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2)課題の目標を明確に提示し、どのように表現するか考えさせる。 (3)音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身に付けられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表する機会を多くする。また、ICTを活用する。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)		
(1)観点別の評価における学期ごとの比較		
(2)歌唱・器楽の実技試験、定期テスト、ワークシートの活用		
(3)授業における生徒の様子(発言、授業の取り組み、提出物、等)		

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組むことができる。 (2) イメージしたものを表現するための、表現方法の幅が狭い。
	指導面	(1) 色彩・レタリング・彫塑などの基礎習得のための教材を工夫し改良する。 (2) 多様な表現技法を紹介しながら、表現意図に応じた指導を工夫する。
2年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組むことができる。全体的に集中力も高い。 (2) 表現意図に応じた創意工夫に、主体的に取り組む姿勢を身に付けさせたい。
	指導面	(1) 多様な技法を紹介し、表現の幅を広げることができるような手だてを工夫する。 (2) 表現活動に対する苦手意識を持つ生徒への指導や支援を行う。
3年	学習面	(1) 全体的な集中力も高く、意欲的に学習に取り組むことができる。 (2) 表現活動に対する興味によって、制作進度に個人差がある。
	指導面	(1) 技法指導を工夫し、表現活動を深めていくことができるようにする。 (2) 表現活動に対する苦手意識をもつ生徒への指導や支援を行う。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1) 色彩・レタリング・彫塑などの基礎を習得できるように指導する。 (2) 多様な表現技法や、用具の使い方の工夫を指導しながら制作に取り組む。
	指導面	(1) 教材を工夫し、作品制作における基礎的な学習に取り組む。 (2) 教科書、資料集、プリント等の教材を活用しながら基礎的学習を行う。
2年	学習面	(1) 課題内容・作業内容の理解と目標を毎時間把握して、制作に取り組む。 (2) 参考作品を活用し、よりよいアイデアや表現の工夫に気付かせる。
	指導面	(1) 多様な表現技法を用いた参考作品を鑑賞し、美術的な制作意欲を高める。 (2) 苦手意識のある生徒には、スモールステップを通して指導を行う。
3年	学習面	(1) 多様な表現技法を用いた参考作品を鑑賞し、創意工夫のある表現を目指す。 (2) 個々の表現意図に応じた、アドバイスや指導方法を工夫する。
	指導面	(1) 多様な表現技法を紹介することで、美術的な制作意欲を高める。 (2) 苦手意識のある生徒には、スモールステップを通して指導を行う。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)		
(1) 作品やプリントによる目標達成度の確認。		
(2) 定期考査(実技含)における、理解度(意欲)の評価。鑑賞プリント・制作における感想等。		
(3) プリントを活用した生徒による授業評価。		

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) 体力要素のスピードと全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 心身の発達と心の健康について日常生活と関連付けて考えることが課題である。 (3) 自分で考える力、各場面における状況判断に課題がある。
	指導面	(1) 準備運動の中で基礎体力作りのトレーニング種目を1年間通して指導している。 (2) T・Tの利点を活かし個別指導・習熟度別指導を取り入れて授業展開を図っている。 (3) 授業のねらいを明確化するために、ホワイトボード等を活用して授業展開を図っている。
2年	学習面	(1) 体力要素のスピードと全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 健康と環境、傷害の防止について日常生活と関連づけて考えることが課題である。 (3) 言語活動を通して、自己や他者の運動課題を見つけ出し解決していく点に課題がある。
	指導面	(1) 準備運動の中で課題に適した補強運動を実施するように指導している。 (2) 授業のねらいを明確にし、理解を促しながら自ら問題を解決できるように指導している。 (3) T・Tの利点を活かし個別指導・習熟度別指導を取り入れて授業展開を図っている。
3年	学習面	(1) 体力要素のスピードと全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 健康な生活と疾病の予防について日常生活と関連づけて考えることが課題である。 (3) 言語活動を通して、自己や他者の運動課題を見つけ出し解決していく学びの姿がある。
	指導面	(1) 各単元において課題に応じた運動動作を意識するように言葉かけを行う。 (2) 自らの健康・安全の課題に対して適切に対処し、管理していく判断力を養う。 (3) 生徒同士で学び合い、切磋琢磨する環境づくりに努めている。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上が図れるように意識して取り組む態度を身に付ける。 (2) 発達段階や日常生活における個々に応じた課題を設定し、達成できるようにする。 (3) 体育ノートを有効活用し、振り返りや学びの機会を増やして言語活動の充実化を図る。
	指導面	(1) 年間を通して、補強運動や一校一取り組み(持久走)の中で課題のある体力要素に対し克服を図る。 (2) 習熟度別指導・個別指導の授業方法を取り入れ、運動技能が高まるように授業展開を行う。 (3) スモールステップの課題を設定し、運動が苦手な生徒も積極的に取り組む授業展開を行う。
2年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上が図れるように意識して取り組む態度を身に付ける。 (2) 発達段階や日常生活における個々に応じた課題を設定し、達成できるようにする。 (3) グループ活動で話し合いの場を設定し、他者との違いや自己の考えを振り返るようにする。
	指導面	(1) 年間を通して、補強運動や一校一取り組み(持久走)の中で課題のある体力要素に対し克服を図る。 (2) 個々の課題を明確にし、技術の向上を図れるように学習プリントを有効活用して解決を図る。 (3) スモールステップの授業展開から、習熟度に合わせて授業展開を行っていく。
3年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上できる様に仲間と切磋琢磨して取り組む態度を身に付ける。 (2) 発達段階や日常生活における個々に応じた課題を設定し、解決が図れるように学習する。 (3) グループ活動を通して、思考力・判断力・言語力が向上できるように学習する。
	指導面	(1) 視聴覚機材やICTを利用した授業展開を行い、視覚による運動の構造を理解できる指導を行う。 (2) 体育・保健の両分野の知識・判断力を向上するために、理解しやすい言語指導を行う。 (3) グループ活動を通して、自分たちに適した練習方法や、工夫する態度を身につける指導を行う。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)	
(1) 体育ノートや学習プリントの内容から毎時間ごとの評価と単元全体における変容を見る。	
(2) 定期的な技能評価を行う。	
(3) 1つの単元終了時に単元テストを実施し、知識や思考・判断の評価を行う。	

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1)与えられた課題をすぐにこなす生徒と、時間内に終わらせることができない生徒の差が大きい。 (2)1時間という短い時間だが、集中して作業に取り組むことができている。 (3)ものづくり体験をしている生徒が少ない。 (4)ものづくりの経験の少ない生徒が多い。(生活体験・ものづくり経験をする必要がある。(実体験の少ない生徒が多い))
	指導面	(1)一斉指導時、理解が深まる工夫を行っている。また、モニターなど、視聴覚教材を使用して、視的に確認できるようにしている。 (2)1時間でも充実した授業を行えるような準備をしておく。 (3)作業中、個に応じた指導を行っているが、作業が遅い生徒が出てしまう。
2年	学習面	(1)与えられた課題をすぐに取り組むことができる生徒が多い。 (2)1時間という短い時間だが、じっくりと作業に取り組むことができている。 (3)ものづくりの経験の少ない生徒が多い。(生活体験・ものづくり経験をする必要がある。(実体験の少ない生徒が多い))
	指導面	(1)限られた時間の中でテキストを活用するなど基礎・基本事項を定着させている。 (2)1時間という短い時間での指導方法を工夫し、充実した学習活動を行うことができている。また、モニターなど、視聴覚教材を活用し、理解が深まるようにしている。 (3)個に応じた指導を行い、作業が遅れる生徒が出ないようにしている。
3年	学習面	(1)作業進度の差が出てきている。 (2)生活体験・ものづくり経験をする必要がある。 (3)人間関係の希薄化、核家族化による高齢者や乳幼児との関わりが少なくなっている。また、保育実習が中止となってしまった。
	指導面	(1)隔週という限られた少ない時間の中で基礎・基本事項を定着させている。 (2)実習時、個に応じた指導を行っているが、作業が遅い生徒が出てしまう。
2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1)個に応じた指導を充実する。 (2)適切な題材を選択し、毎時間の到達目標をホワイトボードに明確に記し、見通しを持たせる。 (3)作業の時間を確保する。 (4)夏休みに、生活体験を増やすような宿題を出す。
	指導面	(1)しっかり理解できる授業プリントを作成し、活用しているが、さらなる工夫をする。 (2)作業手順の画像表示などを活用し、生徒が理解しやすいように工夫する。 (3)中間評価(小テスト、学習のまとめ、作品状況など)による学習定着状況の把握し、その生徒に合った課題設定を行うようにする。
2年	学習面	(1)1時間ごとの到達目標を明確にし、集中して作業できるようにしていく。 (2)個に応じた指導を充実させる。 (3)家庭での課題を出し、生活体験を増やしていく。
	指導面	(1)授業プリント・学習ノート等を活用し、短時間での理解を深める。 (2)今後作業が増えるため、モニターなどの視聴覚教材や学習者用端末(クロームブック)を駆使して、生徒が理解して作業できる工夫をしていく。 (3)中間評価(小テスト、学習のまとめ、作品状況など)による学習定着状況の把握し、個別に指導する。
3年	学習面	(1)適切な題材を選択し、1時間ごとの到達目標をホワイトボードにて明確にし、作業進度がずれないようにする。 (2)様々な作業ができる教材を、選ぶよう工夫する。 (3)学習面で詳しく丁寧な説明を行い、また家庭での課題を出し、生活体験を増やしていく。
	指導面	(1)短時間での理解を深めるよう、授業プリント・学習ノート等を活用する。 (2)中間評価(小テスト、学習のまとめ、作品状況など)による学習定着状況の把握する。 (3)保育実習が中止となってしまったため、ビデオなどで幼児理解を深める。
3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)		
・中間評価(小テスト、学習のまとめ、レポート、作品状況など)で生徒の取り組みを確認する。		

授業改善推進プラン 教科名:英語科 小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題	
一年	学習面 多くの生徒が、意欲的に授業での様々な活動に取り組んでいる。生徒の授業の感想では、多くの生徒が授業を楽しんでいる。 ①聞くこと:英語での簡単な指示や、教科書等の簡単な聞き取りはできる。リスニング能力は全体的に高いが、英文の数が多かたたり少し複雑になると難しさを感じる生徒もいる。 ②読むこと:大まかに読み取れることはできる。代名詞の表す語や英文の流れをつかむなどを読み取ることが難しい生徒もいる。 ③話すこと:ペアワークに、意欲的に取り組んでいる。事前に練習した内容や予め用意した内容は答えることができるが、即興での回答やプラス1文で答えることに課題がある。 ④書くこと:話すことのできる英文を、書くときになるとできない生徒もいる。英単語のスプリングを覚えることや文構造の理解に課題がある生徒が少なくない。
	指導面 視聴覚機器、デジタル教科書(テキスト)を用いながら、生徒にとって視覚的にイメージしやすく、関心が持てるような指導を心がけている。また、コミュニケーション活動を中心に学習者用端末(クロームブック)も活用している。 ①文法の説明以外はなるべく英語で行うように心がけている。また、教科書本文の内容を大まかに聞き取る活動を行っている。 ②教科書本文の内容を、用意した設問を通して読み取る活動を行っている。また、ペアでの話し合いは疑問点の解決等を行っている。 ③毎時間ペアワークで話す活動をもっている。導入時にはドリルを中心に、復習時にはコミュニケーション的な内容で行っている。 ④話すことから書くことにスムーズにつなげていけるように、ペアワークで話したことを書く時間を設けているが、ほかの3技能に比べて、かけている時間は多くはない。
二年	学習面 多くの生徒が、意欲的に授業での様々な活動に取り組んでいる。発言も積極的に行う生徒も多数いる。 ①聞くこと:絵や写真等の視覚的資料があれば容易に聞き取れる生徒も多い。しかし、話の全体を把握し状況から判断して聞き取るような問題には課題がある。 ②読むこと:多少長い文であっても、読み方や設問の方法を工夫すれば読み取れる。また、複文のように1文が長くなると、より難しさを感じる生徒も多い。 ③話すこと:ペアワークに、意欲的に取り組んでいる。ドリル要素のある会話練習は比較的容易である。自由にその場にあった会話を継続したり、即興であるテーマについて話すことは難しい。 ④書くこと:スピーチなどある程度まとまりのある英文を書くことができる。書ける量や文の種類も増えてきたが、正確に英文を書くことは昨年同様に課題である。
	指導面 視聴覚機器を用いながら、生徒にとって視覚的にイメージしやすくわかりやすい、また関心が持てるような指導を心がけている。少人数の特性を活かし、個別に指導しながら基礎・基本の定着を図る。 ①授業内での教師の英語使用で聞くことに慣れる。また、教科書本文の内容を聞き取る活動を行うことで、概要や詳細な情報を聞き取ることに慣れさせる。 ②帯活動として50語程度の英文を読んだり、教科書のReadを利用し、長文を読む練習と問題の答え方の練習をしりする活動を継続的にしている。 ③ペアワークやグループワークを多く取り入れ、教え合いながら、アイデアを共有し、使える表現を増やしていけるようにしている。 ④既習した文構造や表現を使った英文を書く課題を設けながら、よくある間違いを授業で共有し、まとまりのある内容の文章を正確に英文を書く力を付けられるように指導している。
三年生	学習面 多くの生徒が学習意欲が高く、授業に集中しペアワーク等にも和やかに取り組んでいる。 ①聞くこと:1つの箇所を聞き取って答えを導き出す問題はよく聞き取れるが、複数の箇所にまたがって情報を聞き取る問題が十分に聞き取れないことに課題。 ②読むこと:昨年と比べ、ある程度の長さの文章を読み取り、答える力がついてきた。入試に向けて読解力と読むスピードの向上を図りたい。 ③話すこと:ペアでの会話や発表に意欲的に取り組んでいる。スピーチなど予め準備して発表することはよくできるが、即興での発表や会話、自分から質問することに課題。 ④書くこと:英文を書くことに対する意欲が見られ、書ける量や文の種類も増えてきたが、正確に英文を書くことは昨年同様に課題である。
	指導面 視聴覚機器を用いながら、生徒にとって分かりやすく、関心をもてるような指導を心がけている。 ①授業内での教師の英語使用で英語を聞く習慣を付けながら、教科書本文の内容を聞き取る活動を行うことで、必要な情報や全体を聞き取ることに慣れさせる。 ②帯活動として毎授業100語程度の英文を読んだり、教科書のReadを利用し、必要な情報や概要など読み方の練習と問題の答え方の練習をしりする活動を継続的にしている。 ③ペアワークやグループワークを多く取り入れ、教え合いながら、アイデアを共有し、使える表現を増やす(していける)ようにしている。 ④単元ごとに既習の表現を使用した英語を書く活動を設けながら、よくある間違いを授業で共有し、正確に英文を書く力を付けられるように指導している。

2 授業改善推進プラン	
一年	学習 関心をもてるような視聴覚機器の利用とワークシート・板書の工夫をし、英語が苦手な生徒も苦手意識なく取り組めるような授業づくりに努める。 ①聞くこと:教師の話す英語を聞いたり、教科書本文の内容の聞き取ったりするなどを通して必要な情報を聞き取る力を身に付ける。 ②読むこと:大まかによむことのほか、今後増えていく英量に対応するため、代名詞の示す内容など細かい部分も確認する。 ③話すこと:Q&Aのペア活動で、質問に正しく答えることのほか、プラス1文の表現をペアやクラスで共有し、会話の幅を広げる。 ④書くこと:小テストや復習でつづりの定着を図り、正しく書けるようにする。簡単な英語で事実や考えをまとまりのある英文で書く練習をする。
	指導 基礎・基本の定着を図るとともに、4技能の関連した活動を行っていく。十分なインプット量(8割)を保ち、アウトプットの時間も確保していく。また、コミュニケーション活動や意見の共有などの他、個人の振り返りや記録を残すなど学習者用端末(クロームブック)を効果的に活用する。 ①聞くこと:教科書の本文内容聞き取りなど、英文を聞く機会を多くつくり、また音読練習で英語らしい音のつながり等も指導していく。 ②読むこと:教科書本文の読みとりの設問をさらに工夫するとともに、新出語の提示の際には、コロケーションにも意識させて指導する。 ③話すこと:正しく質問に答えることができるように、帯活動での繰り返し学習し、定着を図る。また発音やイントネーションを意識して話すように指導する。 ④書くこと:定期的に英文を書く練習をする時間を設け、教科書の文を真似したり、少し変えたりしながら正しく書く練習を徹底的に行う。
二年	学習 関心をもてるような視聴覚機器の利用とワークシートの工夫をし、英語が苦手な生徒も苦手意識なく取り組めるような授業づくりに努める。 ①聞くこと:日常的な話題の会話や説明、リテリングを通して、簡単な英文を聞き取れる力を身に付ける。 ②読むこと:読み取り活動では必要な情報、概要、要点を読み取れるよう、教科書本文の読みとりの活動を続けていく。 ③話すこと:質問に正しく答えることに加え、プラス1文の表現をペアやクラスで共有し、会話の幅を広げていく。 ④書くこと:場面にあった英文を適切な表現を選びながら、自身の意見を取り入れた、まとまりのある英文を書く練習をする。
	指導 基礎・基本の定着をはかるとともに、ポートフォリオを活用し、4技能の関連した活動を行っていく。 ①聞くこと:教科書の本文内容聞き取りなど英文を聞く機会を多くつくり、またリテリング指導や、音読練習で英語らしい音のつながり等も指導していく。 ②読むこと:教科書本文の読みとりの設問をさらに工夫するとともに、新出語の提示の際には、コロケーションにも意識させて指導する。 ③話すこと:正しく質問に答えることができるように、帯活動での繰り返し学習やDrillを増やし、定着を図っていく。 ④書くこと:場面にあった適切な表現を書くため、繰り返し適宜既習の英文を書く練習を取り入れる。
三年	学習 視聴覚機器を効果的に用いて生徒の興味・関心を引き出し、苦手な生徒も取り組みやすい授業づくりをする。 ①聞くこと:話されている内容を理解し、必要な情報や概要など正しく聞き取り答える力を伸ばす。 ②読むこと:文章を読むことを楽しみつつ、スキミングとスキニングの練習を行い、文章を読むスピードの向上を図る。 ③話すこと:聞かれた内容に対して答えるだけでなく、自分の考えや相手への質問なども付け加えて会話に広がりかもてるように練習する。新出語の提示にはコロケーションも意識させて指導する。また、初見の絵や映像等を見て、それについて瞬時に英語で描写したり、説明したりする練習を増やす。 ④書くこと:書きたい内容を自分のわかる語彙や知っている表現を使って、正しく伝えられるように練習をする。
	指導 同じ内容を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って練習し、文法や語彙の習得を図る。 ①リスニング問題の練習回数を増やし、入試に向けて様々なタイプの問題を練習し、正しく答える力をつける。 ②2学期以降、文章を読む活動を増やし、様々なタイプの文章を用意する。要点を掴み、正しく答える練習を行う。 ③QAやチャットなど、間違いを気にせず自己表現ができる活動を取り入れ、生徒間で教え合う時間を増やしたい。新出語の提示にはコロケーションも意識させて指導する。 ④文法や語彙を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って練習し、即興で考えて正しい英文で表現できる力を伸ばしていく。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- (1)定期テスト、休み明けテスト、小テスト、スピーキングテスト、発表活動、スプリングコンテスト、復習確認テスト
 (2)授業中に扱ったワークシート、単元終了時の自己評価、定期テスト後の振り返り

授業改善推進プラン 教科名:道徳

小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	①週1回の道徳の時間に教科書等を用いて授業を行っている。集団生活の中での自分と他人についての理解、人との関わり方、物事に対する価値観を育て、養っていくことが課題である。 ②道徳の授業を通して、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない資質を育て、また物事の善悪などの価値観を育てることが必要である。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の問題は適時考えさせる。道徳的価値を高めていくためには、日常生活の課題解決をはじめ、すべての教育活動を通して道徳的課題を考えさせていくことが必要である。
	指導面	①日々の生活で起こった、クラスや個人の問題は道徳の時間だけでなく、適時考えさせ、よりよい対応策や解決方法を見つけていくことが必要である。 ②適時性をもった道徳指導を行なうために、教科書を中心として副教材・時事問題等も活用し、年間計画の配列を考慮して指導を行っている。
2年	学習面	①週1回の道徳の時間に教科書等を用いて授業を行っている。互いに認め合い、高め合える関係の築いていくことが課題である。 ②道徳の授業を通して、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、周りを見て進んで助け、その場に応じた行動が取れるようになることが必要である。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時考えさせ、道徳的課題を考えさせる活動を、すべての教育活動を通して行っている。日常生活の課題解決を通して道徳的価値を高めていくことが必要である。
	指導面	①日々の生活で起こった、クラスや個人の問題を道徳の時間において、再度考えさせ、よりよい解決法を見つけていくことが必要である。 ②適時性をもった道徳指導を行なうために、教科書を中心として、副教材等も適宜利用し、年間計画の配列を考慮して指導を行っている。
3年	学習面	①週1回の道徳の時間に教科書等を用いて授業を行っている。集団生活の中での自分のあり方、周りとの関わり方や距離感を含め、協力して物事を進める必要性を考えることが課題である。 ②道徳の授業を通して、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、命を大切にする資質を育てることが必要である。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題を適時考えさせ、最善の解決法を考えさせる活動を、すべての教育活動を通して行うことが必要である。
	指導面	①日々の生活で起こった、クラスや個人の問題・課題は道徳の時間において、クラスや個人に再度考えさせ、最善の解決法を考えさせることが必要である。 ②適時性をもった道徳指導を行なうために、教科書を中心として、時事問題等も活用し、年間計画の配列を考慮して指導を行っている。

2 授業改善推進プラン

1年	学習面	①道徳の時間に教科書を中心としながらも様々な資料を用いて授業を行い、話し合い活動を通じて主体的に学習させる。そのフィードバックを心がける。 ②道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力も育成する。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は今後も適時考えさせ、道徳的課題を考えさせる活動を、今後もすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	①グループごとの話し合い活動を取り入れ、主体的、対話的な授業を心がける。議論・討論を通して、多角的・批判的に考えさせ、交流し合うことで深い学びを行う。 ②週1回の道徳の時間を中心に(通して)、自分の役割と責任を自覚させ、集団生活の中で他者との関わり方を考える中で自分のあり方をみつめていく。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時共有し合い、考えさせ、課題を考えさせる活動を、引き続き、すべての教育活動を通して行い、道徳的価値観を育成していく。
2年	学習面	①道徳の時間に教科書を中心としながらも様々な資料を用いて授業を行い、話し合い活動を行うことで、様々な視点で物事を考えられるようにする。 ②道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、周り協力して物事に取り組む資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力も育成する。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は今後も適時考えさせ、道徳的課題を考えさせる活動を、これからもすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	①道徳の教科書だけでなく、様々な資料を用い、話し合い活動を行い意見を共有、交流することで、様々な視点や立場で物事を考えられるようにする。 ②週1回の道徳の時間に教科書を中心に、副教材も用い、自分の役割と責任や他者との関わり方を考えさせ、集団生活の中で協力・団結することの重要性を考えさせていく。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時考えさせ、よりよい解決法を考えさせる活動を、これからも、すべての教育活動を通して行っていく。
3年	学習面	①道徳の時間に教科書を中心とした指導では、教科書以外の参考資料や視覚教材も用いる。話し合い活動を行い、意見を共有、交流することで、様々な視点や立場で物事を考えられるようにする。 ②道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、周り協力して最善の解決法を考える資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力も育成する。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題のみならず、社会的な問題も適時考えさせ、道徳的課題を考えさせる活動を、これからもすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	①グループ学習を取り入れることで、対話的な学びのある授業を行う。多角的・多面的、ときには批判的に考えさせることを取り入れた学習を進める。 ②生徒が興味や問題意識をもつことができるような身近な社会問題を取り上げ、主体的な学びができるような資料を用意する。 ③日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時考えさせ、最善の解決法を考えさせる活動を、これからも、すべての教育活動を通して行っていく。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- ①道徳授業地区公開講座などで教員による相互や保護者地域の方に授業評価をしていただき、検証する。
- ②すべての教育活動を通しての教師による、クラスや個人の観察、及び生徒自身による自己評価を比較する。